

キャラクター名  
竜宮 勇魚 (タツミヤ イサナ)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス エグザイル	ワークス	何でも屋	カヴァー	旅人
オプション		年齢	1000歳以上 (外見20歳)	性別	男
覚醒	感染	衝動	闘争	初期侵食率	37 %
出自	貧乏	経験	喪失	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:人魚伝説	2		情報:噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:物の怪	
思い出の一品	
予備心臓	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
古代種	P	N		
八尾比丘尼	P 好奇心	N 無関心		
人魚	P 執着	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリングする。								
イモータルライフ	1	効果参照	オート	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: 戦闘不能をHP2Dで回復。回復した分浸蝕値が上昇。1シナリオ1回。								
リヴァイセル	1	7	オート	至近	自身	自動	闘争、120%	
効果: 戦闘不能をLV×10で回復。1シナリオ1回								
原初の紫:魔獣の治癒力	1	7	オート	至近	自身	自動	-	
効果: HPを回復する効果に+LVDする。1シーン1回。								
自動触手	4	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: ガード時攻撃してきたキャラにHP ダメージLV ×3点。1ラウンド1回。								
原初の灰:闘争の渦	1	7	オート	至近	単体	自動	闘争、120%	
効果: 使用回数制限のあるエフェクトの回数を1回分回復。ただし対象は暴走を受ける。1シナリオ1回。								
アナザーセルフ	1	4D+10	オート	至近	自身	自動	120%	
効果: 使用回数制限のあるエフェクトの回数を1回分回復。1シナリオ1回。								
環境適応	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: あらゆる環境に適応できる。								
超人的代謝	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 沢山食う代わりに病気になるいし、酒にも酔わない。								
イージーフェイカー	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 瀉血。美しい容姿と健康を保ち続ける。不老。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

はるか昔、人魚の肉を食べ不老不死になった男。それはもはや不死の呪いであり、彼は何かあっても死ねない身体となり果てた。

彼の村で魚が全く獲れず次々と村人が餓死していく悲惨な年があった。そんなある日、浜辺に打ちあがったモノがあった。人魚の死体である。それを見つけた一部の村人は、それが何かわからないように捌き、皆に配った。背に腹は代えられない。生きるためだった。仕方なかったのだ。しかし、それを口にした者たちは次々と化け物に姿を変え奇声を発し狂気に陥り、そしてお互いに殺しあった。勇魚は訳も分からず、物陰に隠れていた。彼も確かに肉を食べた。いつ自分も化け物に変わってしまうかもしれないという恐怖と戦いながら、震えていたのだ。化け物たちの争いは一晩続いた。一夜明け、生き残っていたのは勇魚だけであった。化け物と化した村の住人に見つからなかったわけではない。勇魚は死ななかったのだ。いや、死ななかったのだ。何度も瀕死の重傷を負った。だが、その度に彼の身体は異常なほどの回復をみせた。何度失った四肢が生えてきたかわからない。

それから彼の旅が始まった。死ぬための…、いや安らかな眠りにつく為の終わり無き果てしなき旅が…。